

東京大好き



子供の健全育成に尽力する加住地区のみなさんへ

「今の世の中、子供たちを健全に育てないことには明日の日本はない」

こうした杉山会長の呼びかけに地域社会もよく応え、最近は各種自治ボランティア組織（青少年対策委や小P連、中P連、防犯、防火災、交通安全、各町会など）の垣根を超えて「地区住民協議会」のもとに大同

この朗報を教えてくれたのは八王
杉山会長は広い管内（この春、管
内の一部が南大沢署管内に編入され
たとはいゝ）を守るために、かねてより「都内随一」の青パート（台数）による機動作戦」を展開するなど、常に市民と行政、警察が一体となつた防犯活動を強力に推進中だ。

本格的な少子高齢化社会を迎え、地域の中で高齢者や子供たちをいかに守るか、改めて「地域力」が問われている。そんな中、八王子市郊外から「模範的な地域力を発揮して大きな成果をあげている」との朗報が飛び込んできた。サテ、どんな地域力なのか、急ぎ八王子へと向かつた。

わが街自慢

私たちの宝は、 元気な子供たちです

本格的な少子高齢化社会を迎えた。地域の中で高齢者や子供たちをいかに守るか、改めて「地域力」が問われている。そんな中、八王子市郊外から「模範的な地域力を発揮して大きな成果をあげている」との朗報が飛び込んできた。サテ、どんな地域力なのか、急ぎ八王子へと向かつた。

「子供たちをしっかりと守り、育てよう」というのが住民みんなの願いであり、今や加住地区一番の自慢でもある。

みの活動ができるようになった。
その中でも特に模範的な地域活動
を展開するのが八王子市北部の「加住
地区住民協議会」。加住地区は十
四町会、三千七百世帯余を数え、急
激な都市化にもなお緑豊かな自然が
多く残る町だ。

A group of people, including children and adults, are working together in a garden. They are harvesting large leafy vegetables, likely kohlrabi or turnips, from the ground. The scene is outdoors with greenery and a building in the background.

収穫体験も楽しい思い出

地域住民が先生となる 子供と楽しい放課後教室

杉山会長と一緒に訪ねると、次の
代表の面々が日頃の活動成果を満面
の笑顔に表わしながら迎えてくれた。
▽細井衛（加住地区住民協議会会長）
、▽遠藤富久（同会長代行）、▽大澤敬之
(宮下町会長)、▽坂本万里子（加住
小P.T.A副会長）ほか。

II順不同・敬称略II

A group of people are riding horses in an outdoor arena. In the foreground, a person wearing a white shirt and blue pants is riding a dark brown horse. Behind them, another person in a white shirt and blue pants is riding a light-colored horse. To the left, two more people are on horseback, one in a blue shirt and tan pants, and another in a white shirt and tan pants. A person in a plaid shirt and blue pants stands next to a light-colored horse. Another person in a white shirt and blue pants stands nearby. The arena is enclosed by a black metal fence, and there are buildings with balconies in the background.

あっかなびっくりの乗馬体験

との強い思いが述べられ、そのためこそ、「地域のタテ割りボランティア組織を串刺しにして笑」、一本化した」というのだ。

この結果、地域のあらゆる知恵と工夫、そして人材が子供の健全育成のために一点集中し、通学路等の防犯パトロールは毎日敢行するとともに、同センターを“第二の教室”として、地域の住民や近くの大学生が先生となって子供たちに社会教育をするといった具合い。

「といって、難かしい勉強ではなく紙ヒコーキや水鉄砲といった昔の遊びを通じて子供たちの創意工夫を高めたり、簡単な茶道から社会人として

人気なのが毎年夏休みに“サタデースクール”として実施する乗馬体験乗馬クラブを経営する地元有志の協力で実現したもので、子供たちの乗馬体験感想文からも地域の皆さんに對する感謝の気持ちでいっぱいだ。「子供たちから自然と感謝の気持ちが出るようになればもうしめたもの悪い子には育ちませんよ。何より子供のことで地域が一体になれたことが嬉しい」と、高橋さん。

高橋さんはボランティア仲間と一緒に毎日のように登下校の子供たちを見守り、時に悪さをしようものなら、我が子ならぬ孫のように叱り飛ばすとのこと。

工夫。そして人材が子供の健全育成のために一点集中し、通学路等の防犯パトロールは毎日敢行するとともに、同センターを「第二の教室」として、地域の住民や近くの大学生が先生となつて子供たちに社会教育をするといった具合だ。

「といって、難かしい勉強ではなく紙ヒコーキや水鉄砲といった昔の遊びを通じて子供たちの創意工夫を高めたり、簡単な茶道から社会人としての礼儀作法を教えるといったことです。もとより周囲には田畠も多いので、四季の農作物の生産体験もしていただきます」と、放課後子ども教室担当の遠藤さん。

「これぞ顔の見える街づくりですよ
昔だったら近所のうるさいオジサン
やオバサンがよその子を叱ることな
ど当たり前のこと。そうしたへと
んどんとんからりの古き良き昔にも

しかしも、昔の遊びを教えるのは高齢者が多いためから、放課後子ども教室は高齢者の皆さんにとっても楽しい交流の場、生きがいづくりの場となる。

「そろそろ正月の möchten 大会の準備に取りかかる」